2021 年度実施概要

学校名

気仙沼市立唐桑小学校

採択活動名

自ら課題を見いだし，身に付けた知識を活用して解決しようとする児童の育成 ～「海と生きる探究活動」における探究的な学びの充実を通して～

実施単元　※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 唐桑の「宝」を知ろう	3	特別の教育課程「海と生きる探究活動」
2. 唐桑の海の豊かさを探ろう	4	特別の教育課程「海と生きる探究活動」
3. 世界につながる海の「今」を探ろう	5	特別の教育課程「海と生きる探究活動」
4. 自分たちの未来を考えよう	6	特別の教育課程「海と生きる探究活動」

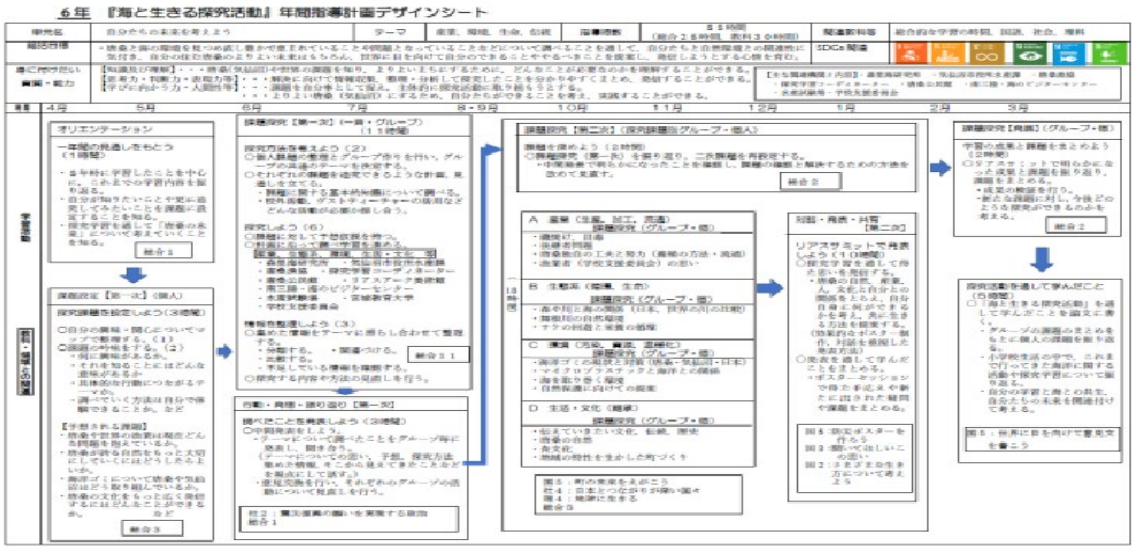
取り組みの概要

特別の教育課程「海と生きる探究活動」の実践（1 年目）

1.「海と生きる探究活動」デザインシートの活用

「海と生きる探究活動」デザインシートを軸として，

各学年ごとに共通体験を基にして，「探究のスパイラル」を意識した単元を構想して実践した。



【「探究活動」を意識した単元カリキュラムの構想】

課題設定①→課題追究①→まとめ・発信①→課題設定②→課題追究②→まとめ・発信②→振り返り

（中間発表会）　（リアスサミット in 唐桑）

【共通体験】

学年	学校支援委員会　等	ふるさと学習会（唐桑公民館）
３年	・宮城県子ども環境教育出前講座 ・海藻押し葉づくり体験	・魚市場見学 ・リアスアー美術館見学 ・リアスアーク美術館学芸員講話
４年	・カキ養殖体験 ・カキ温湯処理見学	・公共施設（クリーンヒルセンター）見学
５年	・カキ養殖体験 ・サケ料理教室	・海辺の自然と生物の調査 ・定置網起こし体験
６年	・カキ養殖体験 ・カキ水揚げ，カキむき体験	・唐桑の歴史探訪

【個人及びグループ課題】

３年 「唐桑の宝を知ろう」	４年 「唐桑の海の豊かさを探ろう」	５年 「世界につながる海の『今』を知ろう」
・神社の不思議 ・リアス海岸の不思議 ・郷土料理の不思議 ・漁業の不思議	・唐桑の養殖 ・唐桑の食べ物 ・唐桑の水質調査 ・唐桑の歴史	・海洋ごみを減らしてきれいにしよう ・川の生物と川の環境の関係 ・海の生き物の環境を守ろう ・森と川と海のつながり

６年 「自分たちの未来を考えよう」		
・森林とCO_2の関係 ・森林破壊 ・磯焼け問題について ・唐桑の人口減少対策とまちづくり ・漁師さんのイメージアップ大作戦	・海洋ごみと自然 ・海洋ごみを減らす ・海洋ごみ ・海洋ごみについて ・地球温暖化	・唐桑の海と自然 ・唐桑御殿について ・唐桑の食文化 ・唐桑のまちづくりと津波

2．地域と連携・協働する学びの場の設定

地域人材を活用し，地域と連携・協働する学びの場を設定することにより，学習内容や方法等に対する児童一人一人の関心・意欲の向上を図った。

４年探究学習コーディネーターによるパネルディスカッション

５年学校支援委員による講話

3. 協働での授業作りの推進

校内研究として協働での授業づくりを推進し，児童一人一人の関心・意欲に応じた指導の充実を図り，学習のまとめや学びの成果をポスターやプレゼンテーションで表現し，「リアスサミット in 唐桑」で他の学年や保護者，お世話になった地域の方々に発信した。

(1) 研究主題

自ら課題を見いだし，身に付けた知識を活用して解決しようとする児童の育成

～「海と生きる探究活動」における探究的な学びの充実を通して～

(2) 研究目標

特別の教育課程「海と生きる探究活動」の授業実践を通して，児童が自ら課題を見いだし，身に付けた知識を活用して解決しようとする指導の在り方を明らかにする。

(3) 研究の視点

視点１　課題意識をもたせるための工夫

ア　児童自身が解決しなければと感じる課題提示や設定の工夫

イ　自分で課題を発見させるための工夫

視点２　多様な考えを生かし，学び合える場の設定

ア　自力解決の中で自分の表現を見直し，修正させる工夫

イ　互いに教え合い，自分で解決，または集団で解決させるための工夫

視点３　学びを生かす評価の工夫

ア　学びの成果を実感でき，次の課題を見付け，自身の行動につなげる探究型学習法の工夫

イ　自己チェックシートによる評価 ・ポートフォリオ評価

(4) 育てたい力

□課題を自分事として捉える力

□学んだ知識や技能を生かし，自分で解決できる力

□新たな課題を見付け，行動できる力

(5) 目指す児童像

□低学年部】

□身の回りの事象について興味をもち，知ろうと取り組む子ども

□分かったこと，できたことを他の学習で生かそうとする子ども

□振り返ったことを基に，もっと頑張ろうとする子ども

□中学年部】

□自分の身近なところに興味をもって課題を見付ける子ども

□課題の解決のために既習の知識を活用できる子ども

□学んだことを見直し，そこから新たに課題を見付けられる子ども

□高学年部】

□唐桑（気仙沼）のよりよい未来のために，何が問題なのか，どんなことが必要なのかを真剣に考え課題を見出す子ども

□自分の学習テーマについて自ら動いて情報収集をし，整理・分析して探究したことを分かりやすくまとめ，発信しようとする子ども

□分かったことで終わらず，考え続け，学び続けていこうとする姿勢を持ち，考えたことを実践しようとする子ども

4. 実践の成果

(1)「探究活動」を意識した単元カリキュラムを構想して実践したことにより，児童一人一人の課題意識が向上し，個人またはグループでの課題追究を充実させることができた。

中間発表会（一次課題のまとめ・発表）

リアスサミット in 唐桑（二次課題のまとめ・発表）

(2)　地域と連携・協働する学びの場を設定することにより，学習内容や方法等に対する児童一人一人の関心・意欲が向上し，その後の探究活動の充実につなげることができた。

５年講師への質問・感想

５年漁師のプロから養殖道具の準備を学ぶ

４年グループ内での情報・意見交換

４年ペアによる学びの整理と振り返り

(3) 協働での授業づくりを推進したことにより，児童一人一人の関心・意欲に応じた指導の充実を図ることができ，学習のまとめや学びの成果を，リアスサミット in 唐桑で，他の学年や保護者，お世話になった地域の方々に，堂々と発信することができた。

①視点 1 に対する手立ての効果

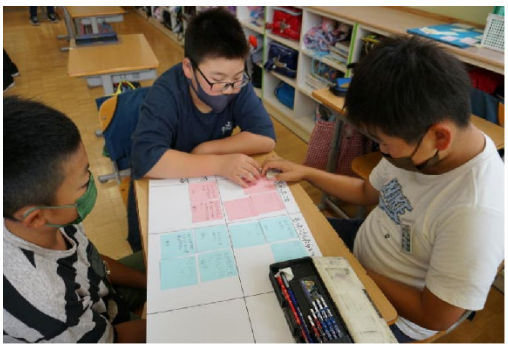
児童は，課題に対して意欲を持ち，示された活動に対して主体的に取り組んでいた。また，リアスサミット in 唐桑では，各学年の発達段階に応じて工夫した発表ができた。

3 年課題設定の様子

5 年リアスサミット in 唐桑での発信

②視点 2 に対する手立ての効果

どの学年でも，学び合いの場として児童が意見を述べ合う活動を重視した。中間発表等で，互いに質問したり，助言し合ったりする活動を取り入れることで，より良くまとめ直したり，新たな探究活動につなげたりすることができた。

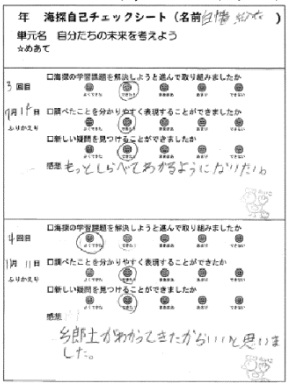


5 年課題の吟味

4 年中間発表会

③視点 3 に対する手立ての効果

次の単元の学習に入る前に，記録を振り返らせたり，探究チェックシートを作成して使用し，授業改善の視点を活動に反映させられるようにした。今後，更に効果的な活用を図るために，小単元ごとに振り返る等，短時間で記入できるようにすると良い。



年　海探自己チェックシート（名前 [illegible]）
単元名　自分たちの未来を考えよう
☆めあて

5 回目　11月1日
□海探の学習課題を解決しようと進んで取り組みましたか
□調べたことを分かりやすく表現することができましたか
□新しい疑問を見つけることができましたか
感想　もっとしらべてあげるようにがんばりたい。

4 回目　11月11日
□海探の学習課題を解決しようと進んで取り組みましたか
□調べたことを分かりやすく表現することができたか
□新しい疑問を見つけることができましたか
感想　名郷土がわかってきたからいいと思いました。

3 年「海探」チェックシート

3 年活動記録の振り返り

5. 今後の課題

ア　校内研究のまとめから

視点１

□　課題提示や体験活動の設定時期などをより計画的に推進するために，年間指導計画やデザインシートの内容の読み合わせや確認が必要であった。また，課題探究する内容によっては，個別の体験・見学が必要になる。その場合に指導者の確保が重要になるので早めの計画で対応したい。

□　TT の指導が生きる実践にするため，T1□T2 の役割を一層吟味する必要がある。実際の指導では，T1 と T2 のコミュニケーション不足が見られたことから，事前の打ち合わせを必要に応じて実施し，効果的な指導・支援につなげたい。

視点２

□　互いに教え合う場の工夫について，リアスサミット以外の場でも，同じ学年部で中間発表会を見せ合う等の機会を設定することによって，学年間のつながりを意識したり，疑問や改善点に気付いたりするきっかけになると感じた。次年度の活動に積極的に取り入れたい。

視点３

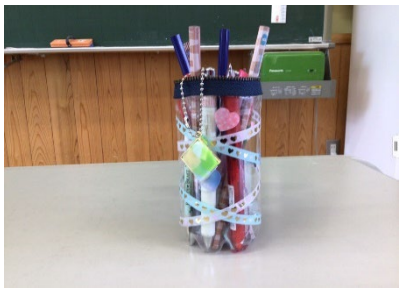
□　探究活動の進め方について，教師の認識に個人差があったことは否めない。指導と評価の一体化を十分に考慮し，誰がどの学年を担当しても，探究活動の充実を図ることができるように協働による研究・実践を一層推進したい。

イ　児童・教職員・地域の変容から

今年度から特別の教育課程「海と生きる探究活動」としての取組となり，当初は探究の内容や方法で戸惑うこともあった。しかし，本校は，多くの地域の多くの方々の支援に恵まれているので，児童の関心・意欲に沿った主体的な活動を開拓する可能性が十分にある。児童によっては自主的に地域の清掃活動（クリーンオルレ）に参加したり，収集した海洋ゴミを使ってペンケースやキーホルダーを作ったり，夏休みの自由研究で海のことを取り上げたり，探究活動で構築した地域の未来への思いや願いを気仙沼スローフェスタで発信したりと，これまで以上に，海に関心を持って活動する児童が増えてきていると感じる。教職員については，特別の教育課程というカリキュラムを作成する上で，戸惑うこともある様子である。しかし，お互いに声を掛け，助け合う機会になっているので，本校の恵まれた環境を十分に生かせるよう，計画的な取組を推進していきたい。地域については，学校支援委員会（県漁協青年部・海友会・唐桑公民館）を中心に変わらぬ御支援をいただいている。更に充実した教育活動になるように，事前の打合せや振り返りを十分に行っていきたい。

６年クリーンオルレへの参加

６年気仙沼スローフェスタでのｈ信



６年拾ったゴミで作った
ペンケースとキーホルダー

6. 次年度以降の取組について

今年度，特別の教育課程「海と生きる探究活動」実践特例校１年目として，昨年度に作成した 「海と生きる探究活動デザインシート」を基に，研究授業をはじめとした日々の実践を重ねてきた。今年度の取組の成果と課題を踏まえ，令和４年度以降は以下の視点で研究実践の見直し・改善を図りたい。

□気仙沼市教育大綱に掲げる「気仙沼・未来想像力」を踏まえた，唐桑小学校スタイルの「海洋教育」「海と生きる探究活動」の構築

□学校・保護者・地域を基盤とする海洋教育支援体制の拡充

□海洋教育副読本の効果的な活用に努め,「地域に根差し，地域の未来を考え，発信・行動する児童の育成」を目指す体系的なカリキュラムの編成

□市内海洋教育推進校等とのネットワークづくり・交流活動の推進